



第48号

誌名：平成武師道
発行元：平成武師道活学塾事務局
京都市下京区麩屋町四条下ル八文字町 341
総合打撃道 TEL：075-361-1199

監修：山口 貴史 山下 希哉
編集：兵庫 義幸

～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

今から17年前の1995年5月に発行した、私のファンクラブの会報が部屋の掃除中にたまたま出てきた。表紙は平成武師道通信と同じで、私の文章が掲載している形である。それを読んでみると、当時の佐竹はいろいろな意味でプレッシャーがあったのだと自分ながら思った。内容はこうだ。

《試合に敗れて感じたのは、世間というものはいかに冷たいかである。ある人は「俺が練習を見ていたら勝てたんだ」と訳のわからない事を言って、女を口説くネタに俺を使っていた。心の無い観客は、負けた瞬間「なあ～んだ、あんな佐竹だったら俺でも勝てる」と言っていた。(なら代わりにK1に出なさい)しかし、こんな事ではヘコたれない。例え独りになっても、俺は俺の道を進んでやる。決して媚びず、妥協せず、強い心を持って正義の道を全うするのみだ。邪道な奴らには潰されはしない！頼れるものは己の五体のみ。》

ファンクラブの会報にしては重い内容だ。

17年後の私自身、この文章を読んでみて、いかに現在が気持ちの良い、やりがいのある世界で、

良き仲間、良き同志達と活動できているのかを痛感する。

当時、周りの関係者は人気ばかりを追いかけて、外の事ばかり気にして生きていた。

しかし、今は違う。

人気を追いかける必要はない。

外の事ばかり気にするより、まずは自分の内なる心の在り方を見つめる事の方が大切だ。

そして、何をすべきなのか。

何をしてはいけないのか。

これらをしっかりと線引きできる自分を作る環境が、今は平成武師道の会としてある。

今は私独りだけではない。

平成武師道の同志に支えられ、何をしなければならぬかを見つけ、行動に移し、

結果を次の世代に残していける環境にいるのだ。

今ならはっきりと言える。

人気を作るよりも人望を作る。

これを忘れてはいけない。

しかし、17年前も良い事は言っていたな。

正義の道を全うするのみだ。

今でもこの気持ちは忘れていない。